

令和元年11月28日
(2019年)

保護者の皆様

吹田市立西山田中学校
校長 瀬尾 紳二

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

【国語 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値とほぼ同じという結果であった。

学習指導要領の領域ごとに見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均値とほぼ同じである。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均値をやや上回っている。また、出題の趣旨ごとにみると、「封筒の書き方を理解して書く」と「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する」については、全国平均値をやや上回っている。一方「話し合いの話題や方向性を捉える」についてはやや課題が見られる。

最後に問題形式でみると「選択式」と「記述式」は全国値とほぼ同じであるが、「短答式」については全国平均値をやや上回っている。

【国語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力は概ね身につけていると考えられる。しかし、文章を論理的に組み立て、表現・記述する力や、漢字の書き取り問題を解く力が比較的弱い。今後は授業の中で、文章を論理的に組み立て、グループや全体の前で発表させる場を増やしていきたい。また、「漢字の書き」に関しては漢字学習ノートの定期的なチェックや、漢字テストを通して力をつけていく。

一方、「話すこと」の力の中で「話し合いでの発言の役割について、適切な判断をする」という力が他と比べやや下回っている。今後も授業の中で、様々な人数編成のグループによる話

し合いの時間を設け、コミュニケーション能力の向上を図っていく。

【数学 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値をやや上回るという結果であった。

学習指導要領の領域ごとにとみると、「図形」「資料の活用」の領域では全国平均値とほぼ同じであり、「数と式」「関数」の領域では全国平均値をやや上回っていた。

個別の問題で見ると、「 a と b が整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ」「冷蔵庫 A の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差を表すものを選ぶ」「読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める」については全国平均値を上回っている。しかし、「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める」については、やや下回っていた。また、記述式の問題に対する無回答率にやや課題が見られた。

【数学科における成果と今後の改善点について】

授業の最初に行う復習プリントや、習熟度別少人数授業の特性を生かした「数と式」で行う計算問題の時間を多く設けるなど日々の活動を大切にしてきた。そのため、積み重ねてきた基礎的な学習内容が定着してきているものと思われる。各分野については、日々の宿題を常に確認し、問題集の取り組み方の指導や教科書の章末問題などのノートチェックを行い、単元の定着に力を入れてきた。また、「数学的な見方や考え方」をさらに向上させるため、グループ活動などの工夫を取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できるよう取り組む。本校の取り組みとして、「めあて」の提示と、振り返りを実施し、一日の授業で学んだことを整理することで、得意な分野と苦手な分野を理解し、自らの理解度を把握できる授業を行い、学習意欲を高める授業づくりに取り組んでいる。今後も継続して、数学に苦手意識を持つ生徒には個別の指導を、より発展した課題に取り組みたい生徒には発展プリントを渡すなどの、生徒の課題に合わせた授業づくりを行う。個別に質問しやすい環境を作るため、テスト週間の放課後に補習を行う。

【英語 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値とほぼ同じという結果であった。

学習指導要領の領域ごとにも、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国平均値とほぼ同じである。

「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」では全国平均値を上回り、「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」では全国平均値をやや上回っている。一方、「教室英語を理解して情報を正確に聞き取ることができる」「日常的な話題について情報を正確に聞き取ることができる」及び「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」では全国平均値をやや下回った。

【話すこと（参考値）】

平均正答率は参考値ではあるが、全国平均値をやや上回っているという結果であった。

評価の観点で見ると、「言語や文化についての知識・理解」では全国平均値を上回っているが、「外国語表現の能力」では全国平均値を下回った。

「適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる」では全国平均値を大きく上回り、「基本的な文法（現在進行形）を理解して応答することができる」では全国平均値をやや上回った。一方、「与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる」では全国平均値を下回った。

【英語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から、1、2年生で学習した文法の内容に関しては概ね身につけていると考えられる。しかし、情報を正確に聞き取る力や、まとまりのある文章を読んで理解する力に課題があることがわかった。「話すこと」においても基本的な表現や文法は理解しているが、自分で考えを整理してまとまった考えを話すことには課題が見られた。

今後の課題としては、これまでに習得した文法事項を適切に使い、いかに正確に文章を正確に読み、自分の考えをまとめることができるかという点が挙げられる。今後の授業の取り組みとして、まとまりのある文章を聞いたり読んだりする取り組みを増やしていく。また、ペアワークやグループワークも活用しながら、自分の考えを発表する機会も設けていく。

2 生徒質問紙に関する調査結果の分析

【調査結果】（全国平均値との比較）

[自分自身のことについて]

- ・自分には、よいところがあると思うと答えた生徒がやや多い。
- ・将来の夢や目標を持っていると答えた生徒が多い。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると答えた生徒がやや多い。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると答えた生徒が多い。
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思うと答えた生徒がやや多い。
- ・学校の規則を守っていると答えた生徒がやや少ない。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと答えた生徒がやや少ない。
- ・学校の部活動に参加していると答えた生徒がやや少ない。

[家庭生活・家庭学習について]

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えた生徒がやや少ない。
- ・学校の授業時間以外に、普段1時間以上読書をする生徒はやや少ない。
- ・学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行くと答えた生徒がやや少ない。

[地域生活について]

- ・今住んでいる地域の行事に参加していると答えた生徒が非常に少ない。

[学校生活・学習について]

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと答えた生徒がやや多い。

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると答えた生徒がやや多い。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用したと答えた生徒が非常に少ない。
- ・授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと答えた生徒が少ない。
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒が多い。
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた生徒がやや少ない。
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた生徒がやや少ない。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと答えた生徒が多い。

【改善・向上のために（学校では）】

- ・毎日の授業や行事、生徒会や委員会活動などによって、生徒の自尊感情や自己肯定感は着実に育ってきていると思われる。また、どんな小さなことでも生徒の頑張りを認め、声掛けをしていく姿勢をこれからも継続していく。
- ・将来について展望をもっていて、キャリア学習等においても一定の成果を上げている。今後も引き続き、取組みを進めていきたい。
- ・規律を順守したり、人権を尊重したりする道徳的価値の観点において若干数値が低い傾向もみられ、価値の向上のために道徳の授業を一層強化していくなどの対策に取り組む。特に、「いじめ」は絶対に許されないことであるということは、道徳授業やホームルームなどを通し、しっかりと認識させる。
- ・生徒会活動や委員会活動の活性化を目指し、生徒が主体となって生活改善や規範意識を高め、取組みを、これまで以上に推進する。
- ・読書の習慣が低下してきている傾向が見られる。言語力の育成のため、学校図書館の充実、小学校や家庭と連携して読書活動を推進する取組みを検討し、言語的思考力の向上を図る。
- ・今後の社会の変化に対応していけるよう、ICTを利用した授業展開や主体的、対話的で深い学びを実践できる授業の研究を校内で行い、総合的な学力の向上に貢献できるよう取組みを進める。

【改善・向上のために（家庭では）】

- ・引き続き学校と協同し、家庭内でも基本的な生活習慣の定着に留意し、子どもの健全な心身の成長をみまもっていただく。
- ・家庭での過ごし方や時間の使い方について、子どもと話し合う機会を作り、家庭学習の計画や実践など家庭教育の充実を図っていただく。
- ・地域の行事やボランティアなどに子どもと進んで参加し、地域貢献やボランティア精神の向上に努めていただく。
- ・社会の動きや情勢に関心をもてるように、時事ニュース等について話し合う機会を家族でもっていただく。